

## 第2回 地域づくりビジョン審議会 議事録（発言内容まとめ）※町HP用

- |   |
|---|
| ・日時：令和5年9月7日（木）<br>18時30分～20時30分<br>・場所：問寒別生涯学習センター |
|---|

### [出席者(敬称略)]

#### 審議会委員 9名

芳野 福一／橋元 誠／森崎 英典／遠藤 雅樹／千葉 未絵／坂本 太一／  
高木 健太郎／小川 加津子／牛崎 英一

#### オブザーバーその他 12名

幌延町役場問寒別出張所 秋山 将

（地独）北海道立総合研究機構 石井 旭、牛島 健

歴史地域未来創造（株） やまチ 神長 敬、安東 勇人

（株） エスエーデザインオフィス一級建築士事務所 小倉 寛征（リモート参加）

合同会社 メモトック 輿石 彩花、河野 葉子、松本 祐典

事務局（幌延町役場）山下智昭、渡邊涼太、中井正幸

[傍聴人数] なし

1. 開会
2. 挨拶（委員長）
3. 議事
  - （1）これまでの地域づくりビジョンの取組（資料1 事務局）
  - （2）地域づくりビジョン進捗評価手法の検討（資料2 北総研）
  - （3）今後のスケジュール（資料1 事務局）
  - （4）質疑・懇談等
4. その他
5. 閉会

## 1. 開会

- ・ 配付資料の確認及び本日の流れについて
- ・ オンライン参加あるため発言はマイク使用依頼

## 2. 挨拶（委員長）

- ・ 問寒別はなるがままではいけない
- ・ 何をどうしたらいいのかもわかりづらいが、問寒別の未来の希望をもてる糸口を持ちたい人たちが集まっているので、何をするか、どれから手を付けるかを考えていきましょう。

## 3. 議事

### (1) これまでの地域づくりビジョンの取組（資料1 事務局 山下室長）

- ・ 昨年度地域づくりビジョンを策定  
これまで地域と役場で地域づくりを担ってきたが、地域も役場も人数不足なので、新たな担い手として地域運営組織を導入したい。
- ・ 5月に住民アンケート調査（問寒別地区まちづくりアンケート調査）実施
- ・ 6月に第1回審議会として講師川北秀人氏を招聘し地域づくり講演会開催  
地域課題解決のため小規模多機能自治を進めていくもので、地域のための機能や役割を整理する必要性を講演いただいた。現状の団体の併存から、総力を結集した経営組織への変革を提案され、これを受け、問寒別地区における新しい地域のかたちとして、地域団体や事業者と連携しながら各部会で様々な機能を果たしていく地域運営組織（集落支援センター）のイメージを作成して、住民懇談会（第2回本音トーク）で資料として提示しました。
- ・ といかん本音トークで様々な具体的プロジェクトを展開  
コロナ禍を経て様々な地域イベントが復活してきた。それぞれのイベントの運営方法を振り返った。また、住民発の各種プロジェクトとして、共同果樹園、といかん市が進展しており、さまざまな住民を巻き込みながら試行されている。

### (2) 地域づくりビジョン進捗評価手法の検討（資料2 北総研 石井氏）

令和5年度の審議会において、地域ビジョンに沿った地域活動を評価確認していくための指標づくりを目指して審議を進めていく。

#### ○評価手法の案：ロジックモデルの活用

- ・ 何を使ってどんな活動を展開し、何を提供するか。それに加えて、活動によって地域に何がもたらされたかを評価・分析していくことが重要で、時代や情勢によって変わっていく活動と変わらない地域の要求などを踏

まえ、将来的に何がもたらされるかの効果や価値を、やり方を変えながら行われる活動に対して常に評価をしていく方法です。

- ・これまでの評価は、活動を実施するために必要な資源（ヒト、モノ、カネなど）を使って何を提供したのか、その活動結果（実施回数、参加人数、販売数など）で評価していた。しかしながら、直接的な活動結果だけではなく、活動によって中長期的に地域住民に得られる効果や価値をしっかりと考えて評価していく方法がロジックモデル評価です。
- ・既存の地域・団体等活動を行うための資源が不足している状況では、取組の工夫や協働してもこれまでの活動が困難な場合もあり、これは今後団体等の活動状況のヒアリングなどを通して、活動のアウトカムも含めて調べていき、地域にとって効果や価値があってその機能や役割を残していく必要があるならば、地域運営組織において、重ねて、束ねて、その時々地域に合った形で受け継いでいくことが想定されます。

○次回までに、評価指標を具体的に作成

- ・活動のやり方をどう変化させていくかを考える起点にしてきたい。
- ・活動の結果得られるものを軸に、活動内容を変えていくことを考えたい
- ・地域ビジョンの内容をロジックモデルで整理した例は資料2の2枚目資料のとおりです。

【各団体等の活動振り返り】

（石井氏）各団体等の活動等についてその目的、意義、目標などをアウトカムを意識して発言いただく。

○地域団体活動等

《問寒別駅開業100周年記念地域交流会》

- ・コロナ禍で地域の集まる機会がなかった。それをどのように集まる機会ができるかを考えたときに、どのように集まれるかを考えて実施した。
- ・神社の宵宮がなくなり、子供たちが夏のお祭りの体験、思い出作りを目標にして有志が集まって新たな団体を作り開催した。

《ワラベンチャー問寒クラブ》

- ・当初目標：昔は自分たちで勝手に遊んでいた。しかし最近子どもたちだけで自然で遊ぶことができないし、親も教えられない。せつかくの問寒別の恵みを享受せず巣立っていくのはもったいないので、子どもたちに伝える機会を大事にしたい、という目的。子どもも親も自然の姿を知り、遊び方を知る。それぞれの活動は、地域の様々な団体や個人と連携しながら実施している。

- ・春：自然の中で（炭鉱ツアーや山菜取り）
- ・夏：川と生き物の恵み（親子釣り大会）
- ・冬：スノーモービル

#### 《PTA》

- ・学校行事やワラベンチャーは本当に地域の様々な方の協力を得て実施できている。
- ・学校があることは、地域に先生やその家族、生徒が集まり、関係人口が集まり、地域に賑わいをもたらすことになるので、学校を維持することが一番の大きな目標。
- ・家族が来ても楽しめるというPRをしていきたい。

#### 《郵便局》

- ・地域が盛り上がると郵便局も盛り上がる。経営的に維持していきたいので、皆さんの協力を得たい。

#### 《パークゴルフ》

- ・地域の多くの方が参加されている。
- ・大会を年8回ぐらい行っていて、準備も年配の方々に多く協力していただいております。サークルの維持も地域の振興のために頑張っていきたい。

#### ○地域団体活動等

##### 《建設業》

- ・地元就職先があるということが地元企業の意義。稚内や天塩などから通っている人もいます。
- ・技術屋さんの不足もありなかなか大変だが、地域のインフラ管理にも大きな役割を果たしている。

##### 《地域交通事業者》

- ・地域で困っているのが、免許のない人（もともと取得していない、返納した）。医療、買い物などいろいろな目的で乗られる。
- ・復路は家の前まで送っている。それがあって住民は安心して両手いっぱい買い物をする事ができる。

##### 《町内会活動》

- ・問寒別が変わらないといけないタイミングにある。
- ・今後のといかんを考えたときに連合の会長がなくなってしまい、探り探りだった。自分たちでやるべきこと知らないものを整理していった。
- ・動ける人が何役もやるという事態を避けながらこれからの活動を考えていきたい。
- ・本町の会議でコロナ禍に書面会議となったものがあるが、コロナ禍明けでも書面で不都合が無かったため対面会議に戻さず簡素化を図っていた。

考え方ひとつで楽に運営することができるので、やり方などをこれからも模索していきたい。

#### 《福祉事業》

- ・人が少なくなる中で、地元だけで地域のことをやるのは限界にきている。
- ・町外から来るメンバーも多い。共同果樹園の管理は地元の人なかなか自分たちの事業ややることで忙しくて二の次になってしまうかもしれないが、メンバーが率先して動くことができ、地域の方の参加を誘引することができていると感じている。
- ・障害を持った方が地域内を自由に動くことができるように。
- ・地域の人の温かい声掛けが、メンバーの成長にもつながっている。
- ・地域の方も新たな役割を実感しているのでは？

#### 《起業》

- ・当初、意義を持って問寒別を選んだわけではない。
- ・木村呉服店に明かりを灯すことができたことは、人の存在自体が地域のにぎわいを作っているのでは？
- ・新たに人が入っていくハードルを下げたというきっかけにはなっている。

#### 《研究林》

- ・利用している人がいること、住んでいる人がいるという意味で人の呼び寄せる機能となっている。
- ・コロナ禍前で延べ3,500人日、コロナ禍で2,000人日くらいは利用されている。

#### 《盆踊り》

- ・雇われ事業主のような感じだが、仕事内容はわかりやすい。
- ・なるべく効率的に簡単に活動するのがいいとの考えで、周囲へお願いすることも多く失礼がないように気を付けている。
- ・意見の行きつくばに従うように心がけ、今年はとにかく実行することをメインで考えた。
- ・実行委員形式はととてもありがたい。町内会から選ばれたというメンバーのやり方ではなかなか難しいということも感じた。

#### 《民生・児童委員》

- ・独居一人暮らしの見回りを実施している。最近その人たちを対象に昼食会を行って、8割ほど参加してくれた。
- ・話すのは好きだが、なかなか外に出てくれない方もいるのでどうしようか。どう外に出てきてくれるのかアイデアがあったら教えてほしい。
- ・町の生きがい教室や健康教室などとも連携している。
- ・活動に若い世代も携わってほしい。

《過去と今での変化》

- ・人が少なくなっても、新しいものができたり、様々な機能が維持されている。
- ・住んでみたらいろんなことをやっていることを知れた。
- ・問寒別駅開業100周年記念交流会は雨だったこともあり、みんなで近い距離でできたことや子供たちが多く参加してくれたこと、一体感のある共通の話題ができたこともよかった。

《産業・酪農》

- ・昔は100戸以上あったのが今は30戸ぐらいに減少した。
- ・産業が強くなれば、地域を引っ張るものも強くなる。
- ・個人として、ログハウス建てて、外からの受け入れ態勢を準備している。
- ・酪農のサポーターは多く輩出できているが、そこから就農にはなかなか繋がらない。
- ・産業のPRもこれからの地域課題として進めていきたい。
- ・新規の研修生を受け入れても生活を支える体制が弱いので、地域全体で支える仕組みがあってもいいのではと考える。

(石井氏) 次回までに、ご欠席の委員も含め個別にヒアリングなどを進めながら評価の指標を整理していきたい。

○追加資料：問寒別地区 仕事の棚卸し調査結果（速報）

(石井氏) 地域団体等の活動資料を基に、地域活動や会議などを定量的に洗い出して団体や時期ごとの見える化を進めている。データの不足も一部あるが、現状の活動の客観的なデータとして活用できる。サークル活動などもアップデートできればさらに地域活動の現状を把握できるようになるので、これを使って、今後の仕事の重ね合わせ、地域活動等を考えるきっかけとして活用していきたい。

Q. この資料は、これからの活動をみんなでどう効率的に残していくかの議論のためのものなのか。

→実際に事業整理をするかはともかく、今後そのような状況になったときのために、まずは実態把握を行ったもの。

→事業の整理をする際に、意義を尊重し、どのように残すかを考えるための資料となる。

Q. アウトカムの評価はプレイヤーが多い中で、評価を作れるのか。

→目標ごとにまとめ、目的ごとの評価も取り入れていく。

(3) 今後のスケジュール（資料1 事務局 山下室長）

- ・といかん本音トーク（住民懇談会）  
毎月開催して、地域づくりビジョンの取組をみんなで考え実践します。また、地域活動を洗い出しながら、地域の運営方法を考えていきますので、ぜひご参加ください。
- ・地域運営組織号外視察：11月12～15日 島根県雲南市視察  
地域運営組織形成に向けて、先進地の雲南市にある地域自主組織のうち5箇所程度を視察して、組織の取組や組織の形態などを学んで問寒別での組織形成に活かしていきたい。参加募集のチラシを近日中に配付します。
- ・第3回審議会  
12月に地域住民もご参加いただき、道内の地域運営組織等活動を実践している方をお呼びして、地域づくりシンポジウムを開催して事例をご紹介いただく予定。
- ・第4回審議会  
3月に開催し、地域づくりビジョン評価手法素案を作成する予定。
- ・各種地域団体活動、日常生活支援  
これまでに引き続き、各種地域活動等で必要な場合はお声掛けくだされば協力させていただきながら、新しい地域のかたちを探っていきたい。

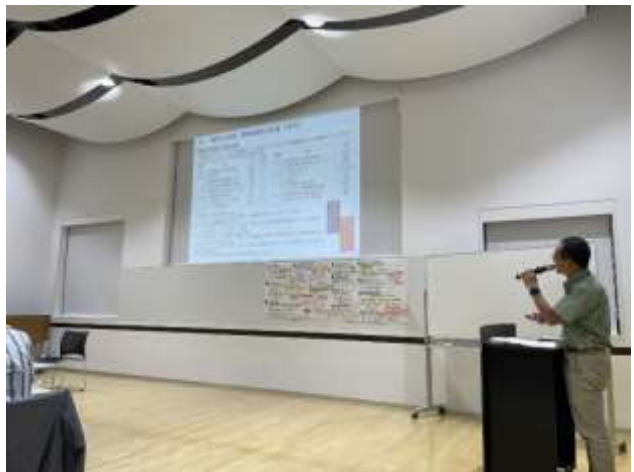
#### (4) 質疑・懇談等

- ・なし

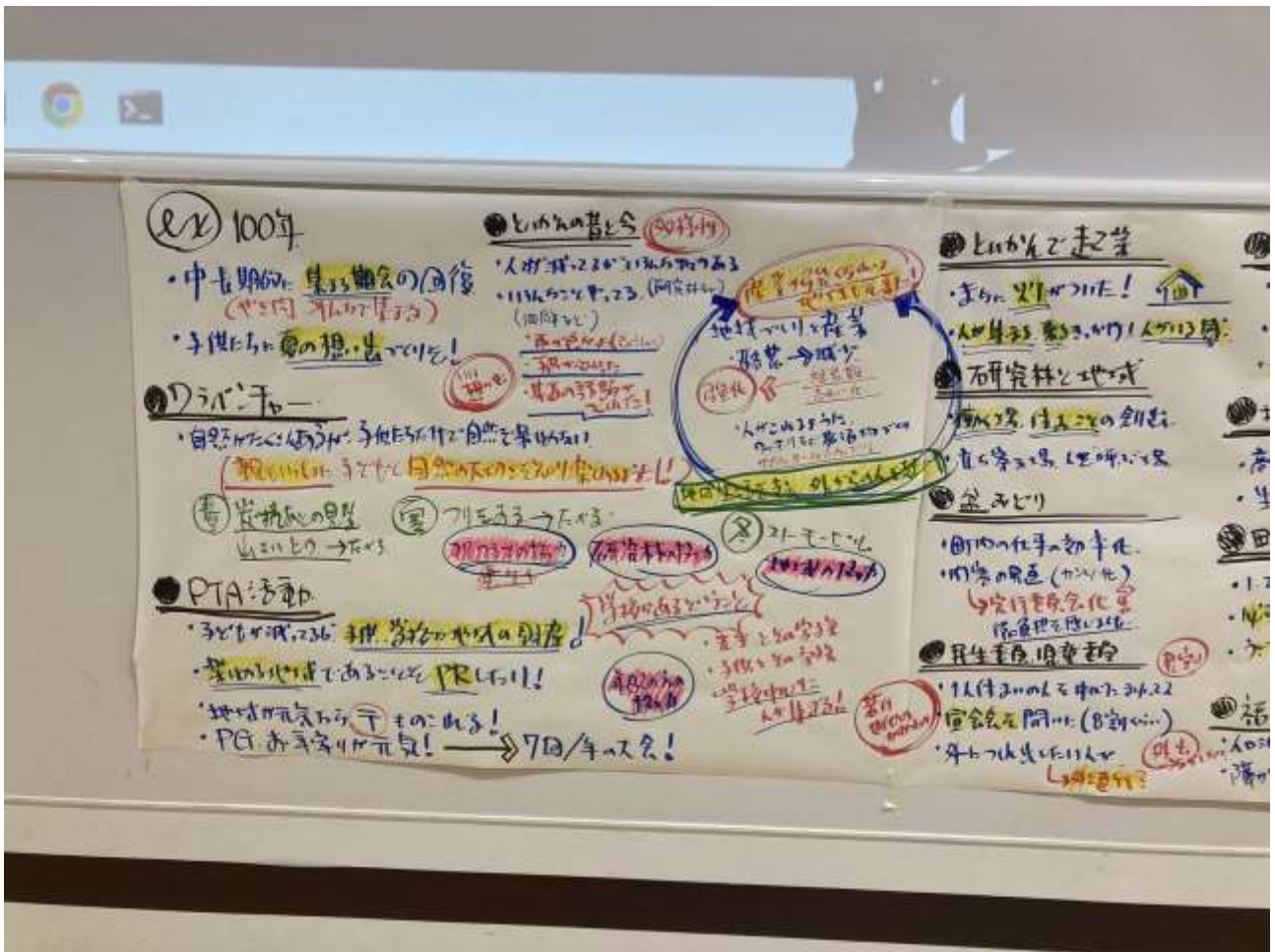
#### 4. その他

- ・なし

#### 5. 閉会







2019.10.07

● 100年  
・中長期的 集約的 回復  
(ヤマト 平山 野田)

・子供たちに 夢・想・出・発・点!

● 100年  
・自然を大切にする 子供を育てる 自然を愛する

● 100年  
・自然を大切にする 子供を育てる 自然を愛する

● PTA活動  
・子ども会 236 班 活動のやりかた

・PTA 活動のやりかた  
・PTA 活動のやりかた

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

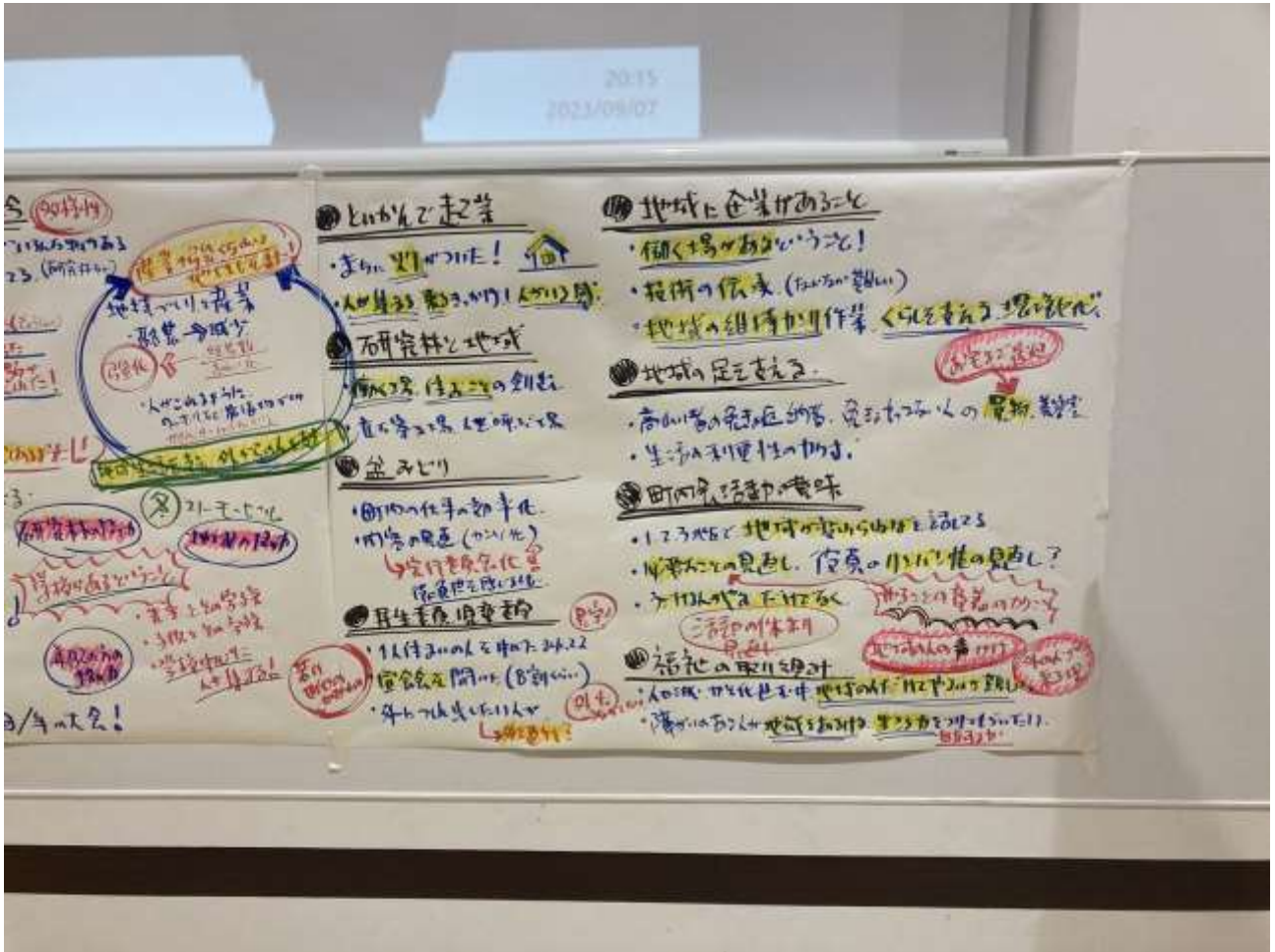
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)



2019.10.07

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

● 100年  
・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)

・11月 23日 (月)